



兄弟姉妹の皆さん、

サレジオ聖心奉獻者会の会員として、家族のニュースを皆さんにお伝えできることをうれしく思います。

私たちの創立者はよく言っていました。「あなたがたは、イエスのみ心そのものから湧き出たのです。」サレジオ会員でボヴァ（レッジョ・カラブリア県）の司教であったモンシニョール・ジュゼッペ・コニャータの人間愛、牧者の愛は、当初、ボヴァ教区の小さな町々のための、宣教精神にあふれる奉仕に具体的に現れていましたが、まもなくほかの地にも広がりました。1985年10月14日以来、私たちはボリビアで、そして2006年以来、ペルーで宣教しています。モンシニョール・ジュゼッペ・コニャータは、宣教精神をもつ奉獻された女性たちの会を望みました。そのため、奉獻者会のすべての修道院は、「ミッション」と呼ばれています。そのことは、私たちのカリスマのこの特徴を絶えず思い起こさせてくれます。惜しみない心をもつ宣教者であること、謙遜で、靈魂の救いのため、いかなる犠牲も受けとめる用意のある宣教者であることです。

今年、私たちはローマのイエスの聖心大聖堂で荘厳な聖体祭儀を祝います。90年前、この大聖堂でボヴァの司教が叙階され、そして同年、1933年の12月8日、サレジオ聖心奉獻者会がペッラーロで誕生したのです。主に、そしてこの奉獻の歳月をとおりて私たちと共に歩んでくださった無原罪のおとめに、賛美と感謝をささげます。

Sister Mariella Maria Beughini

■ サレジオ聖心奉獻者会 SOSC

総長

マドレ・グラツィエラ＝マリア・ベンギニ

神が造られた世界を大切にする： 私たちの共通の使命



神が造られた世界は、私たちへの無償の贈り物です。その美しさは、創り主の限りない美しさを映しています。教会の社会教説の土台は、神にかたどられ、神の似姿に造られたものとして（創世記1・26）、本来、**人のいのちが聖なるものであること**、そして一人ひとりの人間に尊厳があること、です。私たちが神に帰すべき敬いと光栄は、すべての人一人ひとりのいのちと尊厳を尊ぶこと、そして神に造られた世界全体を大切にするのうちに表れます。そのため、私たちは、自然そのもののために自然を大切にするではありません。私たちが神の造られた世界を大切にしようとするのは、何らかのイデオロギーや圧力団体に歩み寄るためではありません。それは、キリスト者としての私たちの信仰の要件なのです。

神は園で男と女を造り、そこを**耕し、守る**よう命じられました（創世記2・15）。事実、被造界は、私たちが意のままに搾取できる自分たちの所有物でもなければ、限られた少数の人々の所有物でもありません。私たちは所有者ではなく、管理を任された者にすぎません。このことは、環境を守る責任があることを意味します。環境破壊の深刻な結果は私たち皆に及びますが、最も苦しむのは、貧しく弱い立場にある人々です。そのため、社会正義は、環境の正義と切り離すことができないのです。（『ラウダト・シ』16、139）

宗教や文化、民族の出自にかかわらず、地球は私たちが共に暮らす家です。私たちは被造界を大切に、全人類の共通善のためにこれを活かします（『現代世界憲章』69）。持続可能なエコロジーを促進する政策や取り組みを、支部、地域、国、世界の各レベルで支持しながら、環境問題のために声を上げる活動を通して、私たちの社会や経済の構造を**変えるため、共に働くこと**が必要です。

何よりも、「**エコロジカルな回心**」が必要です。それは、神を、お互いを、被造界を、より愛するよう、私たちの心と考えを変えるものです（『ラウダト・シ』217-219）。このことは、私たち一人ひとりの日々の小さな行動を通して表されます。その行動は、環境を保護し、再生をもたらすものです：使い捨て文化に従わずに、**より簡素な生活スタイル**を選ぶ、廃棄物のリサイクル、分別、エネルギーの節約、木を植える、プラスチックの使用を減らす、公共交通機関の利用を増やす、太陽光エネルギーの使用を増やす、「ドン・ボスコ・グリーン・アライアンス」や「ラウダト・シ運動」の積極的なメンバーになる。実に、猶予はありません。神が造られた世界を大切にするのは、今です！

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと分かち合い のために

■ なぜ被造界を大切にしなければならぬのだろうか？

■ 共に暮らす家を守るために、具体的に何をしますか？



ブルキナのサレジオ会： 人々に開かれ、温かく迎える



ジョゼフ神父様、神父様はブルキナファソで暮らし、働いています。サレジオの宣教事業で、子ども・若者の益となることは何だと思えますか？

サレジオ会は1993年以来、ボボで、そして2009年以来、ウアガで活動しています。ブルキナファソでの私たちの宣教事業は、福音宣教から職業訓練、社会職業的統合にわたり、かなり広い領域に関わっています。6,500人以上の若者が私たちのセンターで学んできました。機械工、美容師、洋服仕立、コンピューター・オフィスの管理、織物、産業メンテナンス、金属加工、電気工などの職業への就職率は、49%にのぼります。

大多数がイスラム教徒であるこの国で、サレジオの宣教体験の中で、神父様にとって最も興味深いことは何ですか？

ムスリムが多数をしめるブルキナで私たちが取り組む、このミッションの興味深いことを一つ挙げるなら、それは双方の、開かれた、相手を温かく迎える姿勢です：私たちはすべての若者に、サレジオの信条の名によって、同じ機会を提供します。私たちの事業の受益者の6割近くはムスリムの若者です。さらに、2015年以来、テロが原因で、国内の農村地域から人口が流出し、貧困と不安の状況が新たに生み出されています。多くの国内避難民がおり、特にウアガドゥーゲーとボボ・ディウラッソに多くの人が避難しました。私たちの近隣にそのような人々が多く住んでいます。私たちは提携する団体と一緒に定期的に食糧キットを配り、また一部の子どもや若者の学費を援助しています。新型コロナウイルスは、連帯を表す機会になりました。私たちの生徒が作った衛生キット（洗面器、マスク）を配布したのです。モスクでも配りました。

サレジオ会は、さまざまな拷問の犠牲者をどのように助けることができますでしょうか？

犠牲者を前にしたとき、サレジオ会員がまず身につけていなければならない姿勢は、良き牧者から学ぶ姿勢です：犠牲者の側に立つこと、温かく迎える時間を取ることで、それぞれの状況に置かれた犠牲者一人ひとりに耳を傾け、同伴し、支えることです。アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は、2018年のストレンナで、「耳を傾け、共に歩む生き方を深めよう」と招いています。ウアガのサレジオ会の同伴を受けているサレジアニ・コオペラトリーは、司牧奉仕の働きとして、傾聴とガイダンスを行う事務局を開設しました。青少年や家族がこの事務局によって助けられています。今後の挑戦としては、傾聴のためのセンターを開設することです。



ジョゼフ・バッソン神父, SDB

ブルキナファソ出身。2004年にサレジオ会となり、2013年に司祭叙階。メッシーナで神学を修めた後、メッシーナのサン・マッテオ・ディ・ジョストラ小教区の助任司祭を務める。

その後、ギネア、コナクリのサレジオ会修道院院長に任命される。

現在はブルキナファソで、ウアガドゥーゲーのサレジオ会修道院院長、職業訓練センター所長、北西アフリカ管区 (AON) の管区評議員として責任を担っている。



世界における拷問

フォーラム

- ・拷問は世界の112か国でいまだに行われています：メキシコ、ウズベキスタン、ソマリア、アフガニスタン、そのほか多くの国々です。シリアでは、何十年にもわたり30以上の拷問の手法が使われてきました。
- ・現在、世界の100以上の企業が、拷問の道具を専門に生産しています：その多くは電気機器、あるいは化学薬品で、それを使用された人の自由・自律性を奪います（時には永久に…）。

出典：www.voxdiritti.itより



6月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

拷問の廃止のために

ブルキナファソのサレジオ会が、あらゆる拷問の犠牲者の支援に取り組みますように。

拷問の廃止を実現するために、また犠牲となった人々とその家族への支援が保証されるために、国際社会が具体的なかたちで取り組みますように、祈りましょう。

｜ 教皇フランシスコの祈りの意向 ｜

ブルキナファソの
ために

